工芸概論 4

「民藝とは」

工芸概論 4

柳宗悦（1889 – 1961）

日本を代表する思想家。
東京帝国大学哲学科卒。

無名の職人が作る民衆の日常品の美に着眼し、日本各地の手仕事を調査・蒐集する中で、民衆的工芸品の美を称揚するために「民藝」の新語を作り、民藝運動を本格的に始動させていく。

日本民藝館が開設されると初代館長に就任。ここを拠点に、数々の展覧会や各地への工芸調査や蒐集の旅、旺盛な執筆活動などを展開していった。

工芸概論 4

民藝運動

柳宗悦や河井寛次郎 、濱田庄司 たちが大正末ごろから起こした「民藝運動」は、それまで顧みられなかった無名の職人の日々の仕事から生みだされた日常使いの工芸品に美しさを見出そうというという趣旨であった。
失われて行く日本各地の「手仕事」の文化を案じ、近代化＝西洋化といった安易な流れに警鐘を鳴らした。
イギリスのウィリアム・モリスのアーツ＆クラフツ運動からの影響もあったと言われている。

民藝運動の目的

・伝統の中で形作られた古い民藝品の発掘および蒐集。
・すたれつつあった伝統的な手仕事を発見し、技術を復興。
・伝統を踏まえて時代に即した新しいものづくりを推進。
・指導者となる個人作家の支援。

工芸概論 4

民藝品の特性

- **実用性** — 鑑賞よりも実用が重視されたもの
- **無銘性** — 無名の職人たちによって作られたもの
- **複数性** — 民衆の要求に応えるために、数多くつくられたもの
- **廉価性** — 誰もが買い求められる程に値段が安いもの
- **地方性** — 地域の風土や文化が造形に反映されたもの
- **伝統性** — 先人達の知識や技術の積み重ねが継承されたもの

工芸概論 4

日本民藝館

1936年に竣工。
柳宗悦が中心となり設計された。
外観・各展示室ともに和風意匠を基調としながらも随所に洋風を取入れた施設となっている。
現在の館長はプロダクトデザイナーの深澤直人。

工芸概論 4

陶磁①

緑釉ぼてぼて茶碗
布志名焼（島根県松江） 江戸時代

白掛黒流蝋燭徳利
丹波焼（兵庫県篠山） 江戸時代

工芸概論 4

陶芸②

麦藁手碗
瀬戸焼（愛知県瀬戸） 江戸時代

海鼠（なまこ）釉片口
楢岡焼（秋田県大仙） 昭和初期

工芸概論 4

漆工、木工

漆絵箔置柏文秀衡（ひでひら）椀
木製漆塗 桃山～江戸時代

木製、鉄金具 江戸時代

工芸概論 4

ガラス、竹

色替唐草文六角三段重
型吹ガラス　長崎　江戸時代

筍籠
竹製漆塗　京都　江戸時代

工芸概論 4

金工

芯切鋏
真鍮　京都　昭和時代初期

手押文湯釜
鉄鋳製　江戸時代

工芸概論 4

染織

紺地剣酢漿草（かたばみ）大紋山道文様
被衣（かつぎ）
麻、筒描　江戸時代

茜絞染三蓋（さんがい）菱紋旗指物
絹、絞染　桃山時代

工芸概論 4

北海道

赤地切伏衣裳
アイヌ民族（北海道）　木綿、切伏　19世紀

首飾り（タマサイ）
アイヌ民族（北海道）　19世紀

工芸概論 4

沖縄

朱漆沈金宝袋型酒器
木製漆塗　首里　琉球王朝時代

紺地経縞（たてじま）に絣袷（かすりあわせ）衣裳
木綿、絣　首里　琉球王朝時代

工芸概論 4

朝鮮半島①

白磁陽刻四君子文三段重
〔朝鮮半島〕19世紀前半

螺鈿花鳥文箱
木製漆塗 〔朝鮮半島〕 19世紀

工芸概論 4

朝鮮半島②

吉祥文編籠
藺草 〔朝鮮半島〕19世紀

火鉢〈ひばち〉
石製 〔朝鮮半島〕19世紀

工芸概論 4

中国

染付算木文角皿
明時代　17世紀

赤絵丸文繋（つなぎ）深鉢
明時代　17世紀

工芸概論 4

台湾

首飾り
パイワン族　ガラス玉　　19世紀

編笠
アミ族　竹　　19世紀

工芸概論 4

欧州①

スリップウェア皿
イギリス　18世紀後半ー19世紀後半

色絵馬文深鉢
スペイン　18世紀

工芸概論 4

欧州②

ビューロー・デスク
イギリス　17世紀前半

ラダーバック・アームチェア
イギリス　19世紀

工芸概論 4

バーナード・リーチ

イギリス人の陶芸家であり、画家、デザイナーとしても知られる。日本をたびたび訪問し、民芸運動にも関わりが深い。日本民藝館設立にあたり柳宗悦に協力した。

楽焼緑釉筒描茶器
東京　大正時代

楽焼兎文皿
千葉　大正時代

工芸概論 4

河井寛次郎
大正から昭和にかけて京都を拠点に活躍した陶芸家。柳らとともに「日本民藝美術館設立趣意書」の起草に参加、その後は民藝運動の推進者として多くの工芸家を牽引していった。

三色打薬茶碗
京都　昭和時代

呉須刷毛目三段重
京都　昭和時代

工芸概論 4

濱田庄司
柳、河井とともに民藝運動を推進した中心的存在であり、同時に民藝理論のよき実践者であった。物心両面から民藝運動を支え、1961年柳の没後には日本民藝館館長に就任した。

赤絵丸文急須
益子焼　昭和時代

柿釉青流描角鉢
益子焼　昭和時代

工芸概論 4

芹沢銈介
柳宗悦の思想に深い感銘を受け染色作家として民藝運動に本格的に参加するようになる。

布文部屋着
芭蕉布、型染　昭和時代

丸文絞飾布〉
木綿、絞染　昭和時代